

新人紹介

花城 瑞姫

(沖縄県立中部病院 生化学・輸血検査室)

みなさんはじめまして、沖縄県立中部病院、生化学・輸血検査に所属している花城 瑞姫 (はなしろみき) と申します。三重県の鈴鹿医療科学大学を卒業後、県立病院に就職し今年で2年目になります。

趣味は小・中・高校と部活で水泳に励んでいたこともあり今でも天気がいい日は、近くの海でよく海水浴をして楽しんでいます。他にもドライブや体を動かすことが好きでアクティブに休日を過ごしています。

私が臨床検査技師を目指したきっかけは、ドラマをみて憧れたのが始まりです。そこから臨床検査技師の職について調べていくと、医師が正しい診断を下して適切な治療を行う為には臨床検査技師が行っている様々な検査が必要不可欠とわかり魅力的に思い目指しました。大学時代は新型コロナウイルスが流行した時期と重なり、実習にもいけず検査室がどのような感じなのかもわからないまま入職しました。

そして実際に臨床検査技師として働き早くも1年が経ちました。慣れない手技や専門用語に戸惑う事も多かった中、先輩方の知識の深さと対応力に感銘を受ける毎日でした。

中部病院の生化学検査は、県立病院の中でも院内で実施している検査項目が多いそうでインスリンやビタミン B12 などといった項目を覚えるのもとても大変でした。また、日々の精度管理にも苦勞しており、その度に先輩方はアドバイスをくださり、業務時間外にも関わらず時間をかけ丁寧に教えて頂きそのおかげで成長できたと思っています。

生化学検査はただ検体をさばくだけではなく、その疾患に付随して高値になる項目や、内視鏡的逆行性胆管造影 (ERCP) 後にアミラーゼ、リパーゼをなぜ測定するか等々、検査以外のことについても細かく教えて頂き、検査の意義を少しずつ理解できるようになり仕事が楽しくなりました。

また機械トラブルが起きた際の先輩方の臨機応変な対応に検査技師としての意識の高さを感じました。

輸血検査に入った際には、初日に同種抗体を3種類保有している患者さんにあたり不安になったことや、初めて緊急輸血の対応をした時は、緊張しながらクロスマッチを行ったことを私の技師人生で忘れることは

ないでしょう。

日々業務をしていく中で、当院にこられる患者さんのクロスマッチや同種抗体の精査は難しいものも多く、知識も経験もない私には難しいものばかりでした。そんな中で手技だけではなく、原理から細かく教えて頂いたおかげに必要な検査かどうかを取捨選択できるようになり以前と比べ、迅速に検査結果をかえせるようになったのではないかと思います。

また勉強会も開催して頂いたおかげで温式自己と不規則抗体を保有している人のクロスマッチなど珍しい検体にも対応できるようになったおもいます。

こうやって技師1年目を振り返ると何もわからず、教えられたことだけをただこなしていたような気がします。しかしながらこのままではいけないので、2年目は少しずつ外部の勉強会にも参加していき臨床検査技師として少しでも患者さんの役に立てるようスキルアップしていきたいです。また頼りになる先輩方のいる環境に感謝し、さらに精進できるよう頑張っていきたいと考えています。

最後に、右も左もわからない私に1から丁寧に業務をご指導頂いたり、社会人としての自覚と責任感を教えて下さった先輩方、私の日直や夜勤業務のトレーニングに付き合ってくれた生化学・輸血検査室以外の部門の皆様のおかげでいち臨床検査技師として働けていると思います。また休憩時には気さくに話しかけて下さり楽しく仕事ができていると思います。この場を借りて感謝申し上げます。

まだまだ、未熟な私ですが院内、院外問わず多くの人と関わりその中で成長していけたらと考えております。お会いした際は皆様どうぞよろしくお願いたします。

